



# 一日一前

校長室通信

第 8 号

平成 29 年 12 月 13 日

12月 — スマホ騒動・スマホ育児・スマホ世代 —

数年前に先生方が遅刻が多い生徒を放課後に指導していた最中に、生徒の携帯が鳴り、携帯をポケットから出して、携帯で話をし始めました。そのとき、指導していた先生が冷静でいられなくなり、一緒に指導していた別の先生が落ち着かせたことがありました。指導中にもかかわらず、許可を得ずに携帯を出して話をするという行為は信じられませんでした。



一方、その生徒は16時からアルバイトが入っていて、その時間になっても生徒が来ないので、勤務時間を忘れていないかと心配した店長が携帯に連絡してきたという事情がありました。厳しい店長だったので、生徒は反射的に携帯に出てしまったということです。生徒が深く反省したので一件落着となりましたが、便利な情報機器も使い方と問題ありと感じた一件でした。

先日、相撲界でも同じことがあり、モンゴル出身の先輩と後輩という関係の中で、後輩力士が普段からの態度を指導されていた最中に、スマホが鳴ったので、取り出し見てしまいました。その行為に先輩の横綱が腹を立て、素手やカラオケのリモコンで数十発殴り、怪我をさせ、引退に追い込まれました。スマホがきっかけで大きな事件となり、世間は驚いています。

また、スマホには次々と問題点が発生しています。最近、私は大型商業店のフードコートで昼食を取る機会が何回かありましたが、フードコートは好きなものを安い値段で結構美味しく食べることができる便利な場所です。しかし、そこで、あれっという場面を何回か見ました。それらは「子供が泣き止まないのでもスマホを持たすと泣きやんだ」、「親がスマホを見ているため、子供が椅子から落ちて、水をこぼしてもすぐに気がつかない」、「親がスマホを見ている間、子供がじっと終わるのを待っている」、「親が買い物に行っている間、幼い子供一人でスマホの動画を見ながら待っている」などの光景です。ネットによると、スマホを使った育児を「スマホ育児」と呼び、親が就寝時に子守歌代わりにスマホを聞かせ寝かしている実態もあることも知りました。

さらに調べてみると、米国人が日本人以上にスマホの害について興味・関心を持っているようで、米国ではすでに「歩きスマホ」は罰金刑となっている州があります。また、米国南カリフォルニア大学のウィロー・ベイ教授とNPO「コモンセンスメディア」ジェームス・ステイヤー米国スタンフォード大学准教授が日本で調査・研究を行っています。その中で、「親は自分よりスマホの方が大切なんだ」と感じている日本の中高生は20%に上り、また親が会話中にスマホに気を取られていると感じている中高生は25%とアンケート結果が出ています。ネットに夢中の親に、日本の子供は話を聞いてほしいと言えずに我慢していることが考えられると結論づけておりました。

これまでネットトラブルやスマホ依存がマイナス要因として上げられてきましたが、その他にも、ネグレクト（育児放棄）のリスクが高くなったり、サイレントベビー（感情表現が極端に少ない幼児）など次世代にも悪影響を及ぼす現象が出ています。スマホから今回の事件を起こした横綱が職を失ったように、他にも財産・家族・友人・信頼・意欲・感情等を失う危険性も高まっています。また学校もこれまで経験したことのない状況・事件に遭遇することが予想されます。便利な情報機器だけに、スマホ世代の高校生に使い方を計画的に指導できればと思います。

